

都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

1 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することである。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- (1) 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)
- (2) 内科系救急医療の専門医
- (3) 病院での総合内科(generality)の専門医
- (4) 総合内科的視点を持った subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得する。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は單一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにある。

本プログラム施設群での研修修了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成する。そして、東京都区東部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいづれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要する。また、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果である。

本プログラム修了後には、都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群(下記)だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能である。

2 専門研修の期間

図1 都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム(概念図)



基幹施設である東京都立墨東病院内科で2年間(混合タイプは3年間)、連携・特別連携施設で1年間の専門研修を行う。

3 研修施設群の各施設名(資料1 「東京都立墨東病院研修施設群」参照)

基幹施設： 東京都立墨東病院

連携施設 (施設に関する情報は別添1を参照)

No.	所在地	病院名
1	秋田県	平鹿総合病院
2	茨城県	筑波大学附属病院
3	茨城県	筑波記念病院
4	茨城県	J Aとりで総合医療センター
5	千葉県	千葉大学医学部附属病院

6	千葉県	日本医科大学千葉北総病院
7	千葉県	東京ベイ・浦安市川医療センター
8	千葉県	国立国際医療研究センター国府台病院
9	東京都	東京医科歯科大学病院
10	東京都	東京大学医学部附属病院
11	東京都	東京大学医科学研究所附属病院
12	東京都	同愛記念病院
13	東京都	青梅市立総合病院
14	東京都	榎原記念病院
15	東京都	大森赤十字病院
16	東京都	国立がん研究センター中央病院
17	東京都	東京都立広尾病院
18	東京都	東京都立大久保病院
19	東京都	東京都立大塚病院
20	東京都	東京都立駒込病院
21	東京都	東京都立豊島病院
22	東京都	東京都立荏原病院
23	東京都	東京都立多摩総合医療センター
24	東京都	東京都立東部地域病院
25	東京都	東京都立神経病院
26	東京都	東京都立松沢病院
27	神奈川県	横須賀共済病院
28	静岡県	静岡県立静岡がんセンター
29	静岡県	静岡てんかん・神経医療センター
30	大阪府	国立循環器病研究センター
31	兵庫県	川西市立総合医療センター
32	奈良県	奈良県立医科大学附属病院

特別連携施設

No.	所在地	病院名
1	東京都	利島村国保診療所
2	東京都	新島村国保本村診療所
3	東京都	新島村国保式根島診療所
4	東京都	神津島村国保直営診療所
5	東京都	三宅村国保直営中央診療所
6	東京都	御藏島国保直営御藏島診療所

7	東京都	青ヶ島村国保青ヶ島村診療所
8	東京都	小笠原村立小笠原村診療所
9	東京都	小笠原村立小笠原村母島診療所
10	東京都	檜原村国保檜原診療所
11	東京都	奥多摩町国保奥多摩病院
12	岡山県	哲西町診療所

4 プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名

(資料3 「東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

指導医師名

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて確認することができます。

5 各施設での研修内容と期間

専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)などを基に、専門研修(専攻医)3年目の研修施設を調整し決定する。病歴提出を終える専門研修(専攻医)3年目の6ヶ月～1年間、連携施設、特別連携施設で研修をする(図1)

6 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である東京都立墨東病院診療科別診療実績を以下の表に示す。東京都立墨東病院は地域基幹病院であり、救急疾患、がん難病疾患を中心に診療している。

表 東京都立墨東病院診療科別診療実績

2021年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
消化器内科	11,744	27,325
循環器内科	8,908	13,923
糖尿病・内分泌内科	834	9,650
腎臓内科	5,519	8,503
呼吸器内科	6,937	9,568
脳神経内科	5,975	8,749
血液内科	6,392	7,670
救急科	7,612	7,714

感染症科	15, 518	4, 145
膠原病(アレルギー)科	3, 870	14, 212

*代謝、内分泌、膠原病(アレルギー)領域の入院患者は少なめだが、外来患者診療を含め、1学年8名に対し十分な症例を経験可能である。

*13 領域の専門医が少なくとも1名以上在籍している(資料1「都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修施設群」参照)。

*剖検体数は2021年度10体、2020年度11体である。

7 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

subspecialty領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当する。

主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。

専攻医1人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、subspecialty上級医の判断で5～10名程度を受持つ。

ローテーションすべき診療科については専攻医による選択希望をもとに、初期研修期間中の経験症例内容を考慮してプログラム管理委員会によって調整・決定される。期間は1-3ヶ月を原則とする。

8 自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年8月と2月とに自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行う。必要に応じて臨時に行うことがある。

評価終了後、1ヶ月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくす。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくす。

9 プログラム修了の基準

(1) J-OSLERを用いて、以下のi)～vi)の修了要件を満たすこと。

i) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上(外来症例は20症例まで含むことができる)を経験することを目標とする。その研修内容をJ-OSLERに登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例(外来症例は登録症例の1割まで含むことができる)を経験し、登録済みである(指導医マニュアル:別表1参照)。

ii) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理(アクセプト)されている。

iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で2件以上ある。

- iv) JMECC 受講歴が 1 回ある。
 - v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴がある。
 - vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められる。
- (2) 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に東京都立墨東病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行う。
- 〈注意〉「内科専門研修カリキュラム」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間(基幹施設 2 年間十連携・特別連携施設 1 年間)とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがある。

10 専門医申請にむけての手順

①必要な書類

- 1) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
- 2) 履歴書
- 3) 都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム修了証(コピー)

②提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末目までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出する。

③内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となる。

11 プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う(資料 1。「東京都立墨東病院研修施設群」参照)。

12 プログラムの特色

(1) 本プログラムは、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院である東京都立墨東病院を基幹施設として、東京都区東部医療圏、近隣医療圏および東京都のへき地等にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練される。研修期間は基幹施設 2 年間十連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間である

(2) 本プログラムでは、都立病院・(公財) 東京都保健医療公社病院が基幹施設となっている全領域の専門研修プログラムと合同で、集合研修を実施する。

①災害医療研修（1年次）

- ・災害医療の基礎概念を理解する。
- ・災害現場初期診療、救護所内診療、搬送等を想定して、実践的な訓練を行う。
- ・災害現場での手技を習得する。

②研究発表会（2年次）

- ・臨床研修、研究成果を学会に準じてポスター展示と口演により発表する。

(3) 本プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院<初診・入院～退院・通院>まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。そして、個々の患者に適切な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標の達成とする。

(4) 基幹施設である東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できる。

(5) 基幹施設である東京都立墨東病院での2年間(専攻医2年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、J-OSLERに登録できる。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できる(指導医マニュアル：別表1参照)。

(6) 本プログラム施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年目の1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践する。

(7) 基幹施設である東京都立墨東病院での2年間と専門研修施設群での1年間(専攻医3年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた70疾患群、200症例以上の主担当医としての診療経験を目標とする(指導医マニュアル：別表1参照)。少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を主担当医として経験し、J-OSLERに登録する。

13 繼続した subspecialty 領域の研修の可否

- ・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合診療科外来(初診を含む)、subspecialty 診療科外来(初診を含む)、subspecialty 診療科検査を担当する。結果として、subspecialty 領域の研修につながる。
- ・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させる。

14 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行う。逆評価は毎年8月と2月とに行う。その集計結

結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、本プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

15 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。

16 その他

特になし。

別表1 都立墨東病院施設群内科 東京医師アカデミー専門研修 週間予定表（例）

	月	火	水	木	金	土	日	
		内科 朝カンファレンス<各診療科 (Subspecialty) >					担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会参加など	
午前	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	内科外来診療 (総合)		内科外来診療 <各診療科 (Subspecialty) >		内科外来診療 <各診療科 (Subspecialty) >	内科外来診療 <各診療科 (Subspecialty) >		
午後	入院患者診療	内科検査 <各診療科 (Subspecialty) >	入院患者診療	内科入院患者カン ファレンス <各診療科 (Subspecialty) >	内科救急当番	内科救急当番		
	内科合同カン ファレンス	入院患者診療	抄読会					
		地域参加型カンフ アレンスなど	講習会 C P Cなど					

	担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など	
--	--------------------------	--

- ★ 都立墨東病院内科東京医師アカデミー専門研修プログラム「4. 専門知識・専門技能の習得計画」に従い、内科専門研修を実践します。
 - ・上記はあくまでも例：概略です。
 - ・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
 - ・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
 - ・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
 - ・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。